

八ッ場ダム住民訴訟通信-140

2018年11月10日発行

まだある水問題

おもがわかいはず なんま 思川開発(南摩ダム)という無駄遣い

八ッ場ダム、霞ヶ浦導水の陰に隠れながら着々と進むダムがあります。栃木県の思川の支流、南摩川(なんまがわ)に、水資源機構が造る「南摩ダム=思川開発」です。私たちの八ッ場ダム住民訴訟では、茨城県が利水に参加していないことから請求しなかったのですが、栃木県では八ッ場ダムに、湯西川ダム、思川開発を加え3ダム裁判として闘いました。では、茨城県は無縁かと言えば、そうではありません。利水に県の水道供給事業は参加していないものの、古河市水道と五霞町水道が参加しています。治水は茨城県が下流都県として負担をしています。今回は、思川開発とはどんなものか。茨城県はどのように関係するのか。考えてみたいと思います。

小川に造る巨大ダム

計画破綻。規模は半減。それでも強行するゾンビダム。



左の写真が、南摩ダムがつくられる南摩川。幅2メートル程のチョロチョロ川です。とても巨大な貯水量を持つダムは造れません。そこで考えられたのが導水事業。日光東照宮の傍を流れる大谷川(だいやがわ)をはじめ、大芦川(おおあしがわ)、黒川(くろかわ)から水を引き満杯にしようとする算段。ところが、最大の補給水源の大谷川からの導水が今市市民の反対に遭って頓挫。当初の計画は以下のように変更しました。

総貯水量：1億100万トン→5100万トン。

都市用水開発水量：7.1トン/秒→3.2トン/秒

灌漑用水：1.5トン/秒→ゼロ

まさに半減。ここまで縮小したら計画は変更ではなく破たんでしょう。例えば。仕事でパリに行く計画があったとします。しかし何らかの事情でシンガポールまでしか行けないとしたら、それでもシンガポールに行きますか。行くとしたら遊びの場合です。どうやら水資源機構も、参加事業体も遊び半分なのかも知れません。

栃木県は水道事業計画もなしに参加していた。遊び半分は本当だった。

2009年民主党政権が誕生して間もなく「ダムなどの大型公共事業を検証する場」が設けられました。この検証の場が関東地方整備局、参加自治体など事業者の事業者のための検証の場であったことは語りつくされました。それでも八ッ場ダムも霞ヶ浦導水も、そして思川開発もいったんは凍結されました。ご存知のように八ッ場ダムは2011年12月には「継続が妥当」の決定がなされました。でも、思川開発の凍結は解けなかったのです。理由はあまりにもお粗末。栃木県は県南地域市町に送水する広域水道の認可を得ていなかったのです。これでは如何にGOを出したい国も出せません。ドタバタのあげく継続が決定したのは八ッ場ダ

ムに遅れること 5 年の 2016 年 8 月。この一事をもってしてもこの事業の意味の無さが分かります。

茨城県は大丈夫なのか

利水に古河市水道、五霞町水道が。治水に県が参加しています。

思川開発の開発水量は 257,817 トン/日。総事業費は 1850 億円。その内、古河市水道、五霞町水道の負担は以下のようになります。※カッコ内の%は負担率

配分水量(日量)古河市水道：50,630 トン(19.6%) 五霞町水道：8,640 トン(3.4%)

利水負担額 古河市水道：92 億 7000 万円(20.7%) 五霞町水道：15 億 7000 万円(3.5%)

では、古河市、五霞町の水道が、思川開発の完成後どのようになるかご覧ください。

■思川開発と古河市・五霞町水道の将来予測 単位:トン/日

	年 度	自己水源			県営水道 契約水量	保有水源 合 計	使用水量 実績/予想	余 剰 水 量	人 口	
		表流水	地下水	計						%
古河市	2015	40,476	15,510	55,686	2,600	58,286	50,705	7,581	143,255	100
	2025	50,630	3,900	54,530	2,600	57,130	49,993	7,137	133,364	93.1
	差	10,154	-11,610	-11,610	0	-1,156	-712	-444	-9,891	
五霞町	2015	3,456	0	3,456	3,400	6,856	5,657	1,199	8,696	100
	2025	8,640	0	8,640	3,400	12,040	6,908	5,132	8,251	94.9
	差	5,184	0	5,184	0	5,184	1,251	3,933	-445	

※使用水量は 2015 年は実績。2025 年は予想。ともに 1 日最大給水量

※自己水源の表流水は両市とも 2015 年は暫定水利権。2025 年は安定水利権に。

※古河市の自己水源の地下水は思川開発完成をもって 11,610 トン放棄。

先ず、上の表の説明です。古河市・五霞町の 2025 年の自己表流水(太字)が思川開発から得る受水量です。それまでのものは暫定水利権によるものです。古河市の地下水 15510 トンも参加を条件とした許可水量になっていたものです。以下をご覧ください。

地下水を捨て思川開発へ。国策に溺れる？古河市と五霞町。

茨城県では波風もなく進む思川開発も、栃木県では一変、反対運動のうねりが高まっています。そもそも、栃木市など県南の水道はおいしく低廉な地下水で賄われています。それを高く不味いダムの水に変えようとするのですから市民は怒りました。私たちが、八ッ場ダムにしぼって住民訴訟を闘っていた時も、栃木県の市民は前述のように思川開発の中止を訴えていたのです。現在でも闘いの火は消えず、11 月 24・25 日には栃木県南地域水道問題全国集会と水源連(水源開発問題全国連絡会)総会が開催されるなど盛り上がりを見せています。

ひるがえって古河市と五霞町です。古河市は古河市と総和町、三和町が合併したのですが、1974 年思川に暫定水利権が設定され、地下水に全面依存していた古河市と総和町の地下水源はすべて放棄させられました。現在残る地下水源 15510 トンは旧三和町のもので、これとても思川開発の完成をもって非常時用水の 3900 トンを除き放棄させられます。五霞町の地下水は表の上ではゼロですが、思川開発に参加するまでは 100%地下水を利用していました。しかし暫定水利権が設定され、すべて放棄させられたものです。待ち受けるのは水道料金の値上げ。前述の利水負担金もろに掛かってきます。人口は減り続けるのに…。

治水負担金 84.7 億円(国庫補助含む)は茨城県の負担。あなたも、あなたも無縁ではありません。現在でも思川の洪水は渡良瀬遊水地ですべてカット。利根川には一切負荷がかかっていません。その下流にある茨城県が何故負担しなければならないのか。怒ってください。

八ッ場ダムをストップさせる茨城の会 代表:濱田篤信 船津寛
事務局:神原禮二 〒302-0023 取手市白山 1-8-5 携帯:090-4527-7768